

上田安子服飾専門学校
学校関係者評価報告書
(平成25年度)

実施日＝平成26年6月9日

学校法人上田学園
上田安子服飾専門学校

学校法人上田学園 上田安子服飾専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年より本学園のホームページ上に公表しております。

また、平成25年度からは、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施しております。学校関係者評価委員会では、第三者の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也
上田安子服飾専門学校 校長 三原道子

「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「平成25年度学校自己評価報告書」に基づき、6名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

各評価委員には、事前に「平成25年度学校自己評価報告書」を配布した上で、学校関係者評価委員会でご意見を頂戴しました。

その内容等について要約の上、以下のとおり報告いたします。

平成 25 年度上田安子服飾専門学校 学校関係者評価委員会議事録

1.日時 平成 26 年 5 月 31 日(土)15:30~17:20

2.場所 上田安子服飾専門学校61教室

3.議事 (1)平成24年度 学校関係者評価について改善点等の報告
(2)平成25年度自己点検評価について

4.出席者(敬称略)

第1号委員(在学生保護者) 藤本 栄子 ファッションクリエイター学科学生保護者

第2号委員(企業関係者) 赤城 貴久 株式会社ワールド・ビジネス・ブレイン
店舗強化グループ長

第3号委員(卒業生) 荒木 勸嗣 株式会社absolute 専務取締役

第4号委員(高校関係者) 大石 勝 大阪市立泉尾工業高校ファッション工学科
科長

第5号委員(地域関係者)・委員長 三島 保 梅田東連合振興会 会長

第6号委員(学校運営有識者) 池田 知隆 元大阪市教育委員長

事務方 校長	三原 道子
教務部長	小西 祐司(司会)
// ファッションクリエイター、アドバンス、ファッションクリエイター夜間部学科長	山田 浩之
// ファッションビジネス、ファッションビジネスストアマネージメント学科長	東山 幹子
// ファッション工芸デザイン学科長	福田 新之助
// ファッションプロデュース学科長	尾崎 光恵
// 事務総括	門田 久幸
// 学生部長	金森 晋一(代理)

5.配布資料

- (1)上田安子服飾専門学校 学校関係者評価委員会規程
- (2) 学校関係者評価委員会構成
- (3) 平成 24 年度上田安子服飾専門学校 学校関係者評価委員会報告書
- (4) 平成 25 年度 上田安子服飾専門学校 自己点検・評価報告書
- (5) 上田学園第 2 次中長期計画
- (6) 平成 26 年度上田安子服飾専門学校パンフレット

6.議事録

1. 司会が開会を宣言し、委員全員が出席しており委員会規程第 7 条により委員会が成立していることを報告。
2. 議題(1)平成24年度 学校関係者評価について改善点等の報告
「配布資料(3) 平成 24 年度学校関係者評価報告書」に基づき事務方より昨年の経過を説明し、委員に評価・提言を求めた。

委員からの評価と提言は以下の通り。

赤城委員 学校の教育理念、保護者への説明はどうしているのか。

⇒本年度秋の三者懇談会の時にリーフレットを作るなど計画している。

池田委員 卒業後の把握は難しい。転職率は3割といわれている。卒業後の転職相談はどうか。⇒就職課(キャリアサポートセンター)で対応している。

大石委員 学校の在学時に体験授業をしてもらっている。

専門学校への進学のみスマッチがなくスムーズに勉学に入れる。

アパレル業界の転職は多いのが当たり前だと受け止め、スキルアップと考えて柔軟にサポートするほうがよいのではないか。

藤本委員 教員側が一年生から就職について詳しく学生の希望を聞くようにすると良いのではないか。

⇒一年生で年内には担任が就職にむけてのおおよその学生の希望や状態を把握するようにしている。

3. 議題2について事務方より別添資料 4 学校自己評価報告書(平成25年度)に基づき自己評価報告書を説明。

委員からの意見と提言は以下の通り。

大石委員

教育活動について全体としてよくやっていると思う。また、これからの産業の雇用促進がキーとなる気がしている。アジア等海外の(政情も含む)不安定さ、東北の復興支援の意味からも国内産業を拡大してもらいたい。スペインのグローバル企業である「ザラ」のように日本国内で企画してもの作りまでやっていくことを目指して欲しい。また、日本の技術の継承していく意味からも、学校として産業界への働きかけをして連携を深めて欲しい。

赤城委員

今後数年間は、学校の出口の就職については売り手市場になるとわれ、求人数に関してはあまり心配しなくてもよいといえる。このような時期の学校の課題は、「学生募集」に経営資源をより投入することではないか。

また、国内の少子化によって大学との競争が激しくなることはいうまでもないが、様々な調査によると、ファッション分野を希望する学生が減っているのが現状。これについては長期的な視点で考えていきたい。

荒木委員

就職先アパレル企業がSPAの業態に移行していく動向から、クリエイション主体のデザインよりもリアルクローズを主体にカリキュラムを変更したようであるが、企業側としては、何時の時代でも想像力ある学生を求めている。やはりものづくりに徹して教えていく、学校の姿勢はいまや貴重であり、これを継続していくことが肝要である。

池田委員

少子化はいうまでもないが、学校はリカレント教育の受け皿としての役割も果たせるのではないか。地の利の良さを活かし、一旦社会に出た人たちの再教育を手がけることが考えられる。

多様な学生が集まることでファッションの情報の発信地になって欲しい。こうした活動をおして学園のイメージを上げることができるのではないか。

藤本委員

子供から学校のことは良く聞くようにしているので、自己点検の内容もよく理解できる。しかし教育内容についてはなかなかわかりづらい面もある。地方から出てきている学生の親御さんには情報が伝わりにくいと思われる。インターネットを活用するなどして、学校でどんな勉強をしているのか見られるようにならないか。

以上であり、その他の項目について自己評価報告書は適当であると認められた。

4. 議事録の確認を委員長が行う旨の委員長提案が了承されたのち、委員長は委員会の終了を宣言した。 以上